

「民都・大阪」フィランソロピー会議について
～アジアの民都（公益首都）をめざして～

「民都・大阪」フィランソロピー会議
議長 出口 正之 氏

日本の社会課題の根本原因の多くが
東京一極集中に。

ヒトは東京へ

モノ・情報も東京へ

カネも東京へ

今、21世紀の

天下三分の計。

新しい「民都・大阪」が幕あける

2 1世紀天下三分の計

- ①政府のセクター
- ②企業のセクター
- ③第三の非営利・非政府のセクター

「民都・大阪」フィランソロピー会議は
「第三の非営利・非政府のセクターの
トップ」が結集

第三のセクターは法律別、省庁別に縦に分断。
法人格別につながることは縦に東京につながることに。

初めて横でつながったのが
「民都・大阪」フィランソロピー会議
東京では作ることができない組織

政府でも企業でもない経済合理性に基づかない
寄付・ボランティア。
東京へ集める必然性は？？？

皆さんの寄付等の一部は
「会費」という形で
東京の団体に
吸い上げられています。

日本を覆う病「なんとなく東京」
を救えるのは大阪だけです！

■ なぜ「民都・大阪」をめざすのか

- わが国は、戦後一貫して東京一極集中が進む中、人口減少・超高齢社会に突入し、社会経済構造の大きな転換点を迎えている。
生活・暮らし、健康、安全安心など、社会的課題の多様化に対応していくため、従来の行政サービスに加えて、民の力を活かした厚みのあるサービスの構築により、誰もが豊かでいきいきと暮らせる社会の実現が求められている。
- こうした中で、国内では、NPOや社会的企業など社会的課題解決に取り組む新たな主体の増加、CSR（企業の社会的責任）の取り組みが着実に進んでいるが、さらに世界では、寄附や投資等を通じた公益活動が新たな時代の潮流となり、「フィランソピー（※）」への関心が高まりつつある。
- 大阪は、町人が自分たちで多くの橋を整備していったように、都市発展の歴史において、民の力が大きな役割を果たしてきた。官の発想を超える活力を社会の中心に据え、「民が主導する社会」を大阪から創りあげ、国内外に発信していくことにより、東京とは異なる個性・魅力をもった東西二極の一極として【民都・大阪】の復活を果たしていく。

※「フィランソピー」について

語源は、ギリシャ語の「愛する」(Phil-) + 「人間」(Anthropos) で「慈善活動」や「博愛」を意味する語。社会貢献活動の総称。ここでは、社会的課題解決に向けて行う寄附や社会的投資等を通じた公益活動をいう。

フィランソロピーを通じた「民都・大阪」の実現

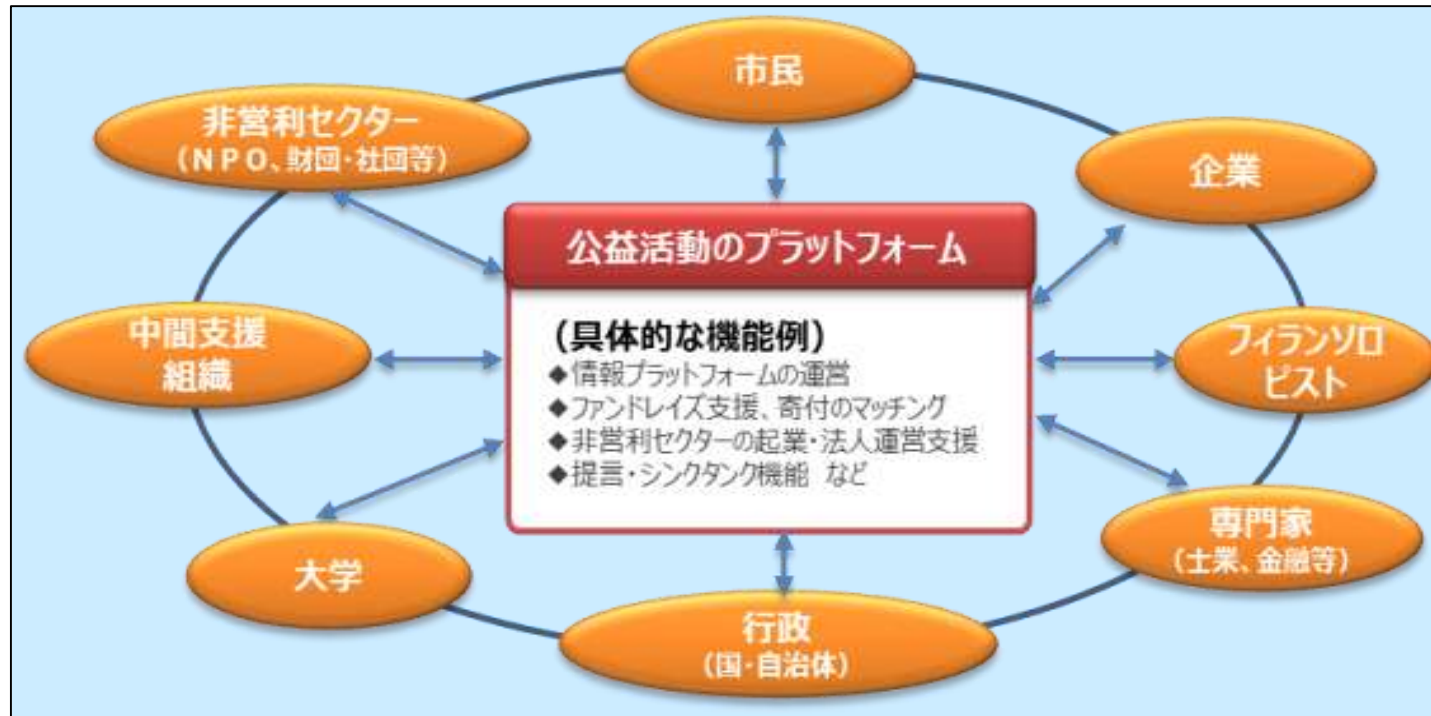
- 我が国では、福祉や医療、教育などの様々な分野において、それぞれの主体が社会的課題の解決や公益の増進に取り組んでおり、また近年では、いわゆる社会的企業のような新たな主体も増えつつある。
- このような**多様な主体が法人格や営利・非営利の枠を超えて、これまでになかった連携や協働（新たなアライアンスの構築）を生み出し、資金・人材の確保や情報発信などについて、従来とは異なる新たな取組みを進める**ことにより、大阪から民が主体となった**社会的課題の解決を先導する**。
- これらを通じて、自らの知識・能力・経験などを活かして公益の増進や社会的課題の解決に取り組むたいと考える**人材を支援**するとともに、住民一人ひとりが**活躍できる社会づくりを後押し**する。また、こうした動きにより**新たな産業や市場、雇用を生み出し、大阪の成長**にもつなげていく。

■ 「民都・大阪」フィランソロピー会議の設置

「民都・大阪」フィランソロピー会議

フィランソロピーへの関心が世界的に高まりつつある中、**多様な担い手が、法人格の縦割りや営利・非営利の区分を越えて一堂に集い、それぞれが公益活動を担う主体だ**ということを再認識（共通のアイデンティティを形成）し、**大阪の民の連携・協力によりその存在感を国内外に示す「核となる場」として、「民都・大阪」フィランソロピー会議をつくる。**

【核となる場（公益活動のプラットフォーム）のイメージ】



■ 会議の構成等

- 官民が協力して設置する**民間組織**（大阪方式）
- サード・セクター及び社会的企業のトップ層**、有識者、府及び市幹部で構成
- 包摂的組織として**分科会を設け、会議としての開放性を担保**する
- 将来は民間組織による運営**を目指す（当面、副首都推進局が事務局を担う）

議論・検討する事項

- *「民都・大阪」の実現に向けた都市政策や、大阪の民（サード・セクター）はどうあるべきか、**新たな連携・協働を生み出す**ためには何が必要か等に関する議論・検討
- *「民都・大阪」に向けた取組みを**民主導で持続可能なもの**としていくための仕組みや体制はどうあるべきか等を検討 など

■「民都・大阪」フィランソロピー会議の構成等

■会議メンバー

(平成30年6月1日現在・五十音順)

| | | |
|------|----|---------------------------|
| 池内 | 啓三 | 学校法人関西大学 理事長 |
| 岩田 | 敏郎 | 社会福祉法人聖徳会 理事長 |
| 大槻 | 文藏 | 公益財団法人大槻能楽堂 理事長 |
| 金井 | 宏実 | 認定特定非営利活動法人大阪NPOセンター 代表理事 |
| 久保井 | 一匡 | 公益財団法人小野奨学会 理事長 |
| 高 | 亜希 | 認定特定非営利活動法人ノーベル 代表理事 |
| 阪田 | 洋 | 大阪府・大阪市副首都推進局 副首都企画推進担当部長 |
| 清水 | 由洋 | 学校法人近畿大学 理事長 |
| 白井 | 智子 | 特定非営利活動法人トイボックス 代表理事 |
| 施 | 治安 | 「大阪を変える100人会議」 顧問 |
| * 出口 | 正之 | 国立民族学博物館 教授 |
| 早瀬 | 昇 | 社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事 |
| 藤田 | 清 | 公益財団法人藤田美術館 館長 |
| 堀井 | 良殷 | 公益財団法人関西・大阪21世紀協会 理事長 |
| 松井 | 芳和 | 大阪府・大阪市副首都推進局 副首都企画推進担当部長 |
| 森 | 清純 | 公益財団法人大阪コミュニティ財団 専務理事 |

(*議長)

■会議の5原則

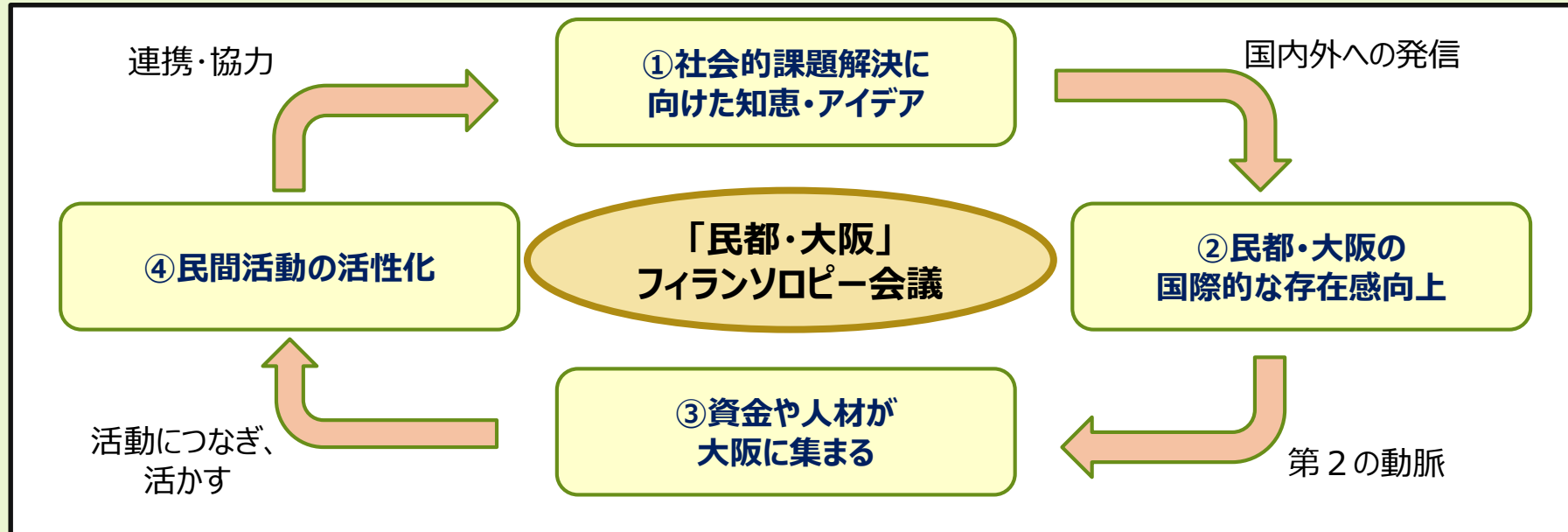
1. 中長期的に**東京一極集中を打破**することを目的とするものであること
2. **「民都・大阪」を目指すもの**であること
3. **民と官の新しい協力**から生まれるものであること
4. 基礎自治体等のNPO政策を阻害するものではないこと
5. 縦割りの施策を面（地域）として捉えなおし、
これまでにない連携や協働を生み出すことを目指すものであること

■ 「民都・大阪」フィランソロピー会議を通じた好循環

■ 核となる場の創出を通じた好循環

- ①この会議を核にして、大阪が抱える様々な社会的課題の解決に向けた**新たな知恵やアイデア**を生み出す。
- ②こうした大阪の動きを**国内外に向けて発信**することで、「民都・大阪」として、アジアを中心に**国際的な存在感を高める**。
- ③「民都・大阪」に、**第2の動脈**として、世界的な潮流である税の分配によらない民の自発的な発意による**寄附や投資、人材が集まる**。
- ④この資金や人材を、民が主体となって大阪における非営利セクターや社会的企業などの**活動につなぎ、活かす**ことで、活動の場を広げ、**民間公益活動の活性化**につなげる。

【循環のイメージ】



■ 分科会

■「大阪・関西発！コレクティブ・インパクトへの挑戦！！」

「民都・大阪」フィランソロピー会議に**資金・人材・情報の3つの分科会を設置（H30年2月）**

- 大阪で活躍する**多様な主体に共通する課題**の解決につながる**新たな仕組みづくり**
- 社会的課題の解決につながる**従来とは異なる新たな手法、**
- 複数の社会的課題の解決につながる新たな連携** などについて検討を行う

（コレクティブ・インパクト：行政・企業・非営利セクター等が分野・組織の壁を越えて連携し、社会的課題の解決を目指すアプローチ）

| | リーダー | 検討の方向性 |
|-------|----------------------|--|
| 資金分科会 | 大杉 卓三 京都産業大学准教授 | 大阪の非営利セクターにどのように新たな資金の流れを生み出すか（ふるさと納税、ファンドレイジング、クラウドファンディング、社会的投資、遺贈、休眠預金への対応など）。 |
| 人材分科会 | 佐々木 利廣 京都産業大学教授 | 非営利セクターにおける人材の高齢化や後継者不足などの状況を踏まえ人材をどのように確保・育成するのか。 多様な主体によるネットワークをどのように形成するか。 |
| 情報分科会 | 中野 秀男 帝塚山学院大学特任教授 | ICT等を活用した非営利セクターにおける効果的な情報の発信・共有手法をどのように構築し普及させていくか。 ITボランティアなどの新たな人材や市場をどのように生み出していくか。 |